

# リビング建材 IIXIL グラウンドラインラフィス アウトセット方式 取付け説明書



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

## ■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

**▲ 注意** …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

## ▲ 注意

●商品が脱落するおそれがありますので、下記事項をお守りください。

- ・取付け前に補強材(躯体)の位置を確認してください。取付け位置に補強材がない場合は、必ず入れてください。
- ・石こうボードなどで補強材(躯体)が見えない場合は、工務店さまに補強材位置および固定方法を確認してください。さらに針刺しなどでねじ止め位置に補強材の中心があることを確認してください。
- ・リフォームなどの場合、補強材(躯体)位置が石こうボードで確認できない場合は、石こうボードなどをはがして補強材位置を確認してください。
- ・石こうボードの表側には、補強材(躯体)は取付けないでください。
- ・補強材(躯体)は硬い木材で、虫食いやくされのない24×70mm以上のものを使用し、柱・間柱などに必ず固定してください。
- ・下地材は、必ず下穴をあけてから、ねじを固定してください。
- ・下地材の下穴は、端部から50mmの位置に1箇所ずつあけ、中間部のピッチは、455mm以下としてください。
- ・ねじは指定のものを指定本数使用して固定してください。
- ・吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押し込んでください。押し込み後、引張って抜けないことを確認してください。押し込みが足りないと、本体が脱落するおそれがあります。

## ■取付け上のおお願い

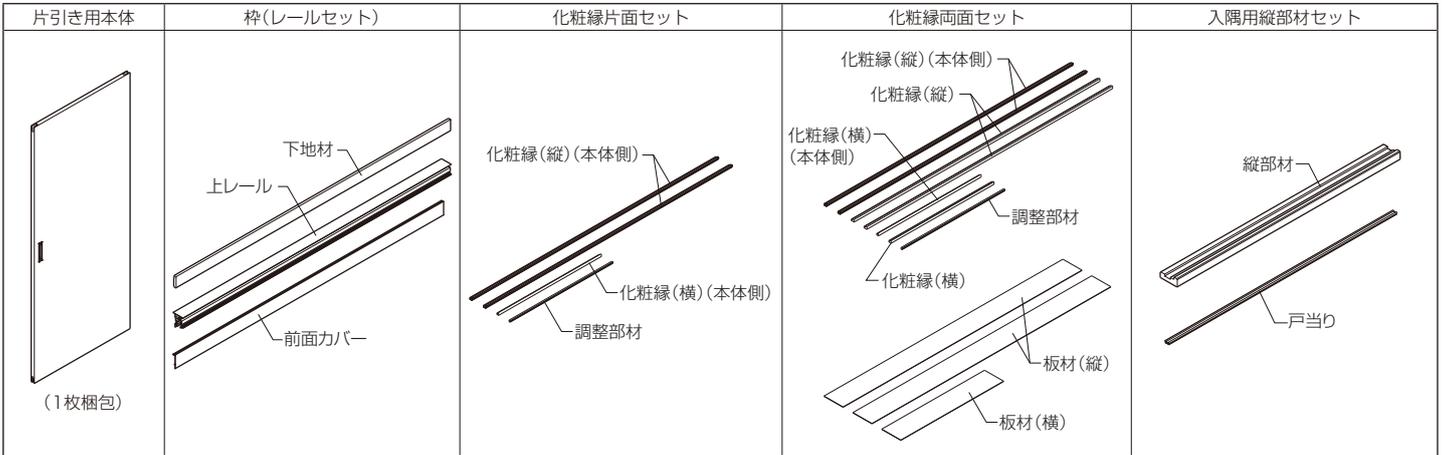
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付けるときは、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれる場合があります。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 造作材・建具枠の下地材・かい木は、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けしてください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に必ず防水処理をしてください。
- 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 梁又はまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱い場合直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けしてください。
- 本製品は上吊方式のため、梁又はまぐさで重量を受けますので、本体重量に耐える断面の梁又はまぐさ(断面寸法105×180mm以上)をご使用ください。上レールの垂れ下がりの原因になります。
- 枠を現場で切断する場合は、必ず両端より均等に切断してください。作動不良の原因になります。
- 枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵がソフトモーション部品に混入し、作動不良の原因となります。
- 下地材固定ねじの頭は、下地材表面からとび出さないように取付けてください。上レールが正しく取付けられなくなります。
- 下地材は水平に取付けてください。水平に取付けていない場合、本体が自然に開閉する原因となります。
- 製品取付の際の建具養生時に表面シートにテープ(ガムテープ、養生テープ、マスキングテープなど)を直貼りしないでください。テープを剥がす際、表面シートを傷めたり、テープの粘着剤が表面シートに付着したまま残ることがあります。
- ガイドピンは本体吊込み時に取付けますので、枠の取付け後大切に保管してください。
- ガイドピンは、取付け順序「**⑧**ガイドピンの取付け」通りに正確な位置に取付けてください。本体の開閉操作に支障が出る原因になります。
- ソフトモーション部品には潤滑剤などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。
- 運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。

## ■本体保管上のお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
    - ・直射日光の当たる場所
    - ・昼夜などで温度差の激しい場所
    - ・湿気の多い場所
  - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

## ■部材・部品一覧表

※枠はノックダウン、本体は完成品です。



### ■枠セット一覧表

名称		片引き用
枠	上レール	1
	前面カバー	1
	下地材	1
部品セット	片引き用	1

### ■化粧縁セット一覧表

名称	片面	両面
化粧縁(縦)(本体側)	2	2
化粧縁(縦)	—	2
化粧縁(横)(本体側)	1	1
化粧縁(横)	—	1
調整部材	1	1
板材(縦)	—	2
板材(横)	—	1
ポリネートチューブ	—	2

### ■入隅用縦部材セット一覧表

名称	入数
縦部材	1
戸当り	1

### ■部品セット一覧表

#### 【片引き用部品セット】

名称	入数
上部ストッパー取付け用(ナベタッピンねじφ4×45)	4本
上レール取付け用(平小ねじM4×10)	14本
下地材取付け用(DN65ねじφ3.8×65)	9本
ガイドピンセット	1セット
吊車	2個
上部ストッパー	2個
端部キャップL/R	L/R各1個

### 【プッシュ錠セット】

名称	入数
プッシュ錠本体	1個
錠座カバー	1個
プッシュ錠取付け用(皿タッピンねじφ3.5×8)	2本

### 【錠受けセット】

名称	入数
錠受けケース	1個
錠受けケース裏板	1個
引戸錠受け	1個
引戸錠受け取付けねじ(皿タッピンねじφ3.5×10)	2本
錠受けケース裏板取付けねじ(トラスタッピンねじφ4×40)	2本

### 【引手セット】

名称	入数
引手A	1個
引手B	1個
取付け説明書	1枚

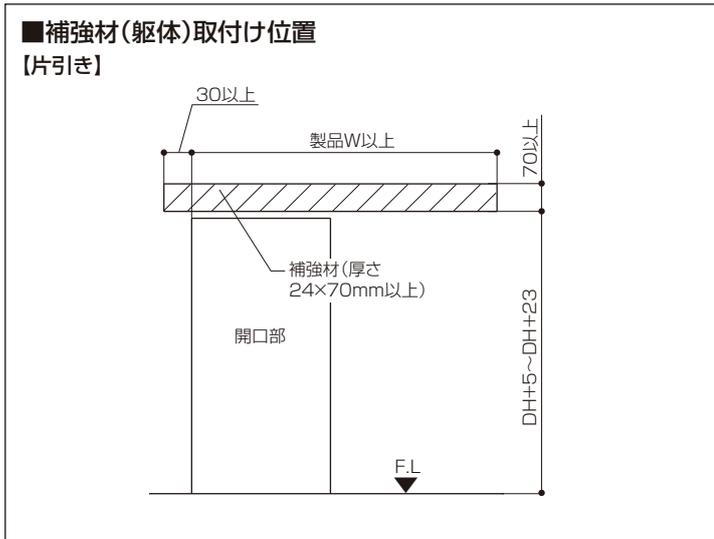
### 【固定ガイドピン用本体端部ピースセット】

名称	入数
端部ピース	2個
取付け用なベタッピンねじφ3.5×30	2本

## ■据付け前の準備

### ■開口部の作成

①下地材取付け用の補強材(躯体)を下図にしたがって入れてください。



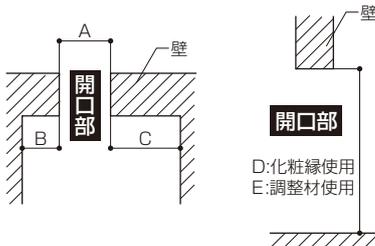
### ▲注意

- 指定の位置に、厚さ24×70mm以上の硬木の補強材(躯体)を設置してください。
- 補強材(躯体)には、虫食い・くされなどのないものを使用してください。
- 補強材(躯体)は、必ず柱・間柱に釘などで固定してください。

②開口部を、取付け範囲(a~c)にしたがって作成してください。

### ■取付け範囲

【片引き】



お願い

※開口寸法は、壁を仕上げた状態の寸法としてください。

#### a) 化粧縁片面セット使用時

	W	DW	A	B	C
W16	1644	819	789以下	30以上	825以上

※ $A+C+30 \geq W$  を満たすこと。

	H	DH	D	E
H20	2046	1973.5	1968	1993

#### b) 化粧縁両面セット使用時

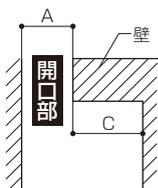
(板材を使用しない場合は、aと同じ範囲です。)

	W	DW	A	B	C
W16	1644	819	795以下	27以上	822以上

※ $A+C+27 \geq W$  を満たすこと。

	H	DH	D	E
H20	2046	1973.5	1971	1996

【片側入隅納まり】



#### c) 片側入隅納まりの場合の化粧縁片面セット使用時

	W	DW	A	C
W16	1644	819	819以下	825以上

※ $A+C \geq W$  を満たすこと。

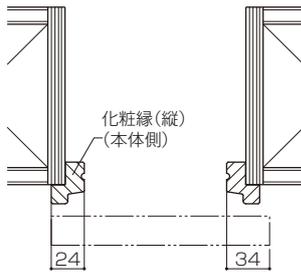
※H開口は、a)と同じです。

## ■据付け前の準備

### ■化粧縁片面セット使用納まり例

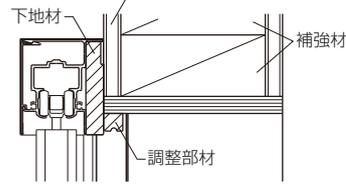
#### ●横断面

見付け幅:24mm



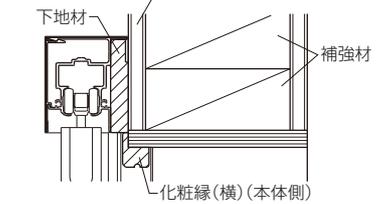
### 【上部調整部材使用納まり例】

#### ●縦断面



### 【上部化粧縁使用納まり例】

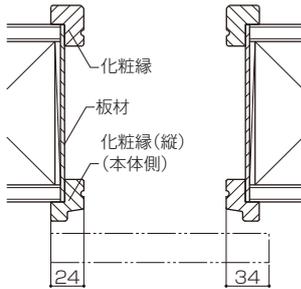
#### ●縦断面



### ■化粧縁両面セット使用納まり例

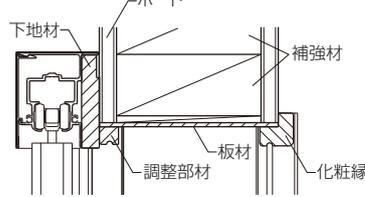
#### ●横断面

見付け幅:24mm



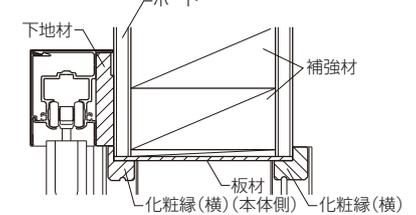
### 【上部調整部材使用納まり例】

#### ●縦断面



### 【上部化粧縁使用納まり例】

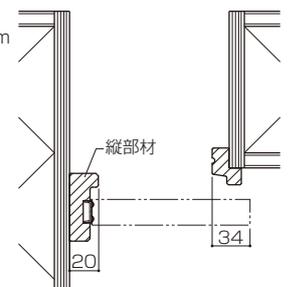
#### ●縦断面



### ■入隅用縦部材使用納まり例

#### ●横断面

見付け幅:20mm



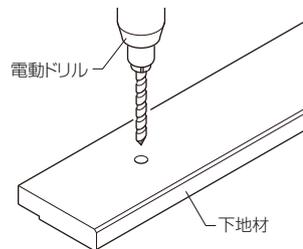
## ■取付け順序

### ■1 枠の取付け

①下地にφ3の下穴(貫通穴)をあけます。

#### ▲注意

- 必ず下地材に下穴をあけてから、ねじを固定してください。
- 下穴は、端部から50mmの位置に1箇所ずつあけ、中間部のピッチは、455mm以下としてください。



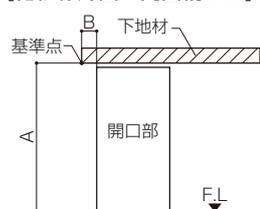
### ■下地材下穴ピッチ



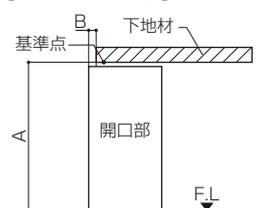
②下地材を指定の取付け位置に、同梱の固定ねじ(DN65ねじφ3.8×65)で水平に取付けてください。

### ■下地材取付け位置

#### 【化粧縁片面／両面納まり】

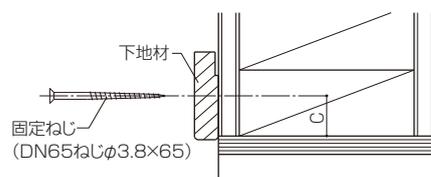


#### 【片側入隅納まり】



呼称	A	納まり	B
H20	1978.5	化粧縁片面	27
H特注時	DH+5	化粧縁両面	24
		片側入隅	3

※室内設置の場合、上記のB寸法は、化粧縁と本体戸先側のかかり寸法が24mm(推奨値)の場合です。戸先側のかかり寸法は、17mm~24mmの間で調整できます。

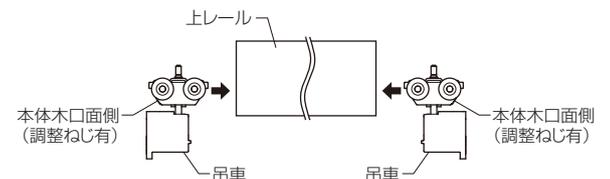


※C寸法は、8mm以上確保してください。8mm以上確保できない場合は、固定ねじを斜めに打込むなどして補強材に固定してください。

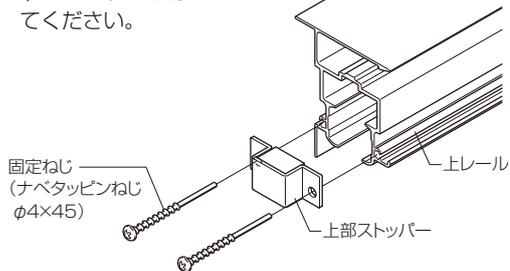
### ■お願い

- ※下地材固定ねじの頭は、下地材表面からとび出さないように取付けてください。上レールが正しく取付けられなくなります。
- ※下地材は水平に取付けてください。水平に取付けていない場合、本体が自然に開閉する原因となります。

③吊車を上レールの左右から図の向きで挿入してください。



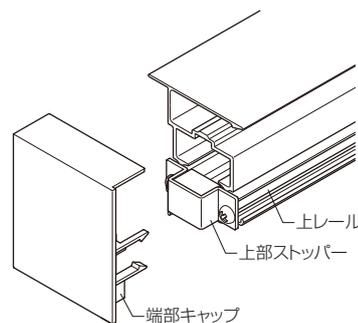
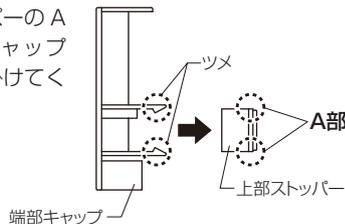
- ④上レール両端に、上部ストッパーを同梱の固定ねじ  
(ナベタッピンねじ  
φ4×45)で取付け  
てください。



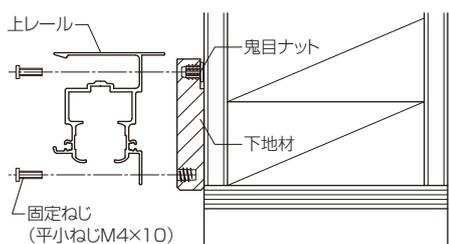
- ⑤上部ストッパー取付け後に、端部キャップをはめ込みます。

### ■取付け詳細

※上部ストッパーのA部に、端部キャップのツメを引掛けてください。



- ⑥上レールを下地材に取付け済みの鬼目ナット位置に合わせ、同梱のねじ(平小ねじM4×10)で取付けます。



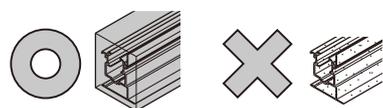
### ■枠を現場で切断して使用する場合

※必ず両側より均等に切断してください。  
※枠は両端から150mmずつ、合計 300mm 切断することができます。下地材・上レールを切断する場合は、片側の切断寸法を同寸法にしてください。



### お願い

※枠を現場で切断する場合は必ず両端より均等に切断してください。作動不良の原因になります。  
※枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵がソフトモーション部品に混入し、作動不良の原因となります。



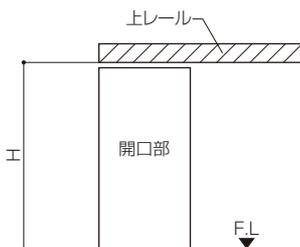
### 【片側入隅納まりの場合】

※造作材の「アウトセット入隅用縦部材」を別途手配してください。

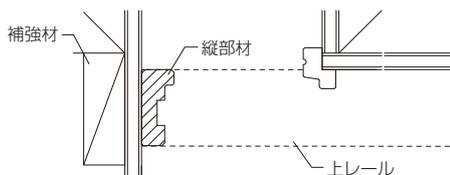
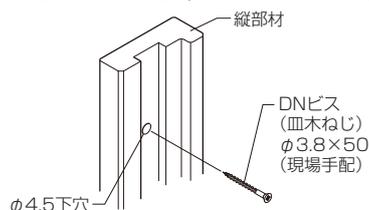
- ①上レールと床の内法寸法Hに合わせ、部材をカットします。

### お願い

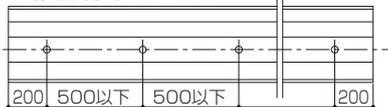
※錠付きの場合、必ず上側をカットしてください。  
下側をカットすると本体との錠位置が合わなくなります。



- ②縦部材にφ4.5の穴をあけ、上レールと床の内側に縦部材を挿入し、DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50(現場手配)で固定します。

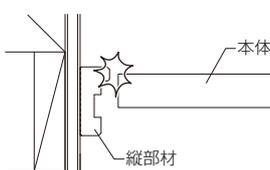


### ■縦部材下穴ピッチ

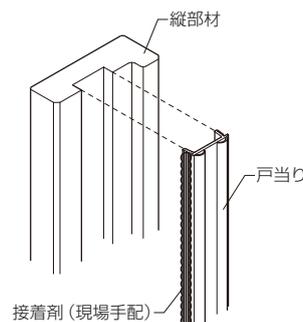


### お願い

※縦部材は、垂直を出して取付けを行ってください。本体が縦部材の突起に当たり、閉まり切らなくなります。

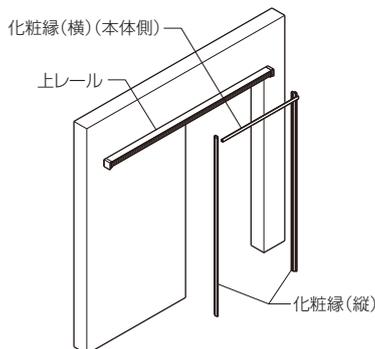


- ③縦部材の溝に戸当りを接着剤(現場手配)で取付けます。



### ■化粧縁の取付け

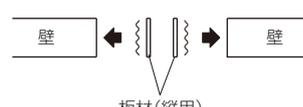
- ①化粧縁材を現場寸法に合わせて切断します。  
②化粧縁材の裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、専用のかかし釘で固定します。  
※かかし釘のピッチは、200~300mmです。  
※化粧縁材の取付け面は、接着剤がつくように仕上げてください。



### ■両面化粧縁の場合

※板材を開口部に取付けた後、化粧縁材を取付けてください。  
※板材の開口部への取付けは、裏面(〜面)に接着剤を塗布して固定してください。又、板材への化粧縁材の固定用接着剤は、同梱のポリネートチューブを使用してください。

### ●横断面図

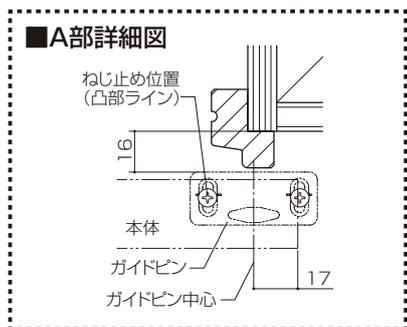
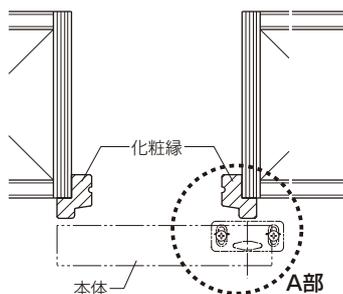


### ●縦断面図

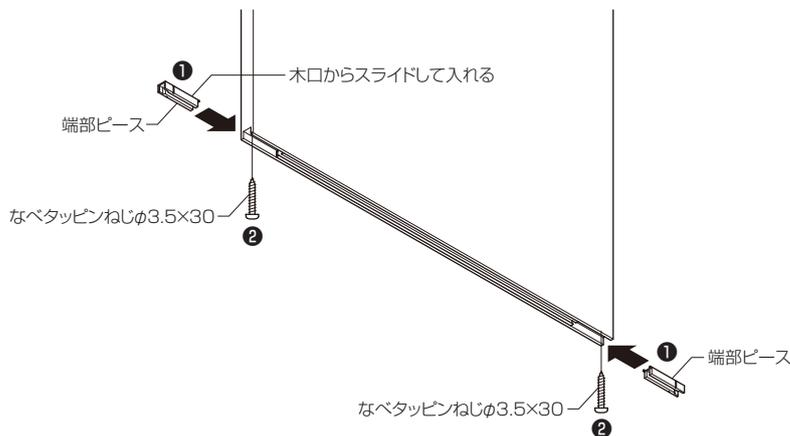


### 3 ガイドピンの取付け

- ガイドピンを枠に同梱のねじ(皿タッピンねじφ3.5×20)で固定します。
- ※デザインにより取付け位置が異なります。必ず右図を参照してください。
- ※本体の開閉操作に影響が出ますので、必ずA部詳細図を参照してください。
- 図の位置および、向きにガイドピンを置き、ガイドピンの長穴(2箇所)の凸部(ライン)の位置にねじ止めしてください。



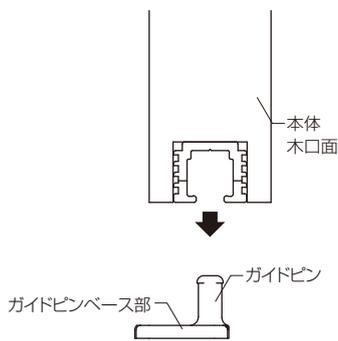
### 4 本体下部部品の取付け



お願い  
●ねじ締め時には、クラッチ付きドライバーか、手回しドライバーを使用してください。

### 5 本体の吊込み

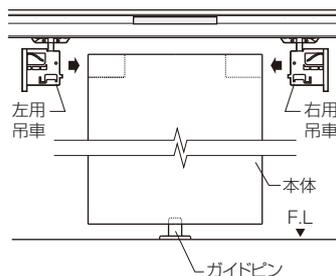
- ①本体を持上げて、本体下部の溝にガイドピンを入れます。



- ②片側ずつ吊車を本体に水平に押込むと、ワンタッチで取付けられます。
- ※吊車の凸部を本体上部溝の凹部に合わせて差込みます。

お願い

- ※ソフトモーション部品と吊車が干渉しない位置で吊込みを行ってください。
- ※ソフトモーション部品に潤滑油を塗布しないでください。作動不良の原因になります。



**注意**

●吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押込んでください。押込み後、引張って抜けないことを確認してください。押込みがたりないと、本体が脱落するおそれがあります。

### ソフトモーション機構の復帰方法

- 本体を吊込んでソフトモーション機構が作動しない場合は、ソフトモーション部品を確認してください。ソフトモーション部品の正常な状態は下図の通りです。
- 下図の状態ではない場合、以下の手順で正常な状態に戻してください。
- ※正常な状態はスライダ1とスライダ2が離れた状態です。



- ①スライダを片側に寄せ、寄せた側と逆側のラッチA部にドライバーなどを挿入し、片側のラッチを回転させます。

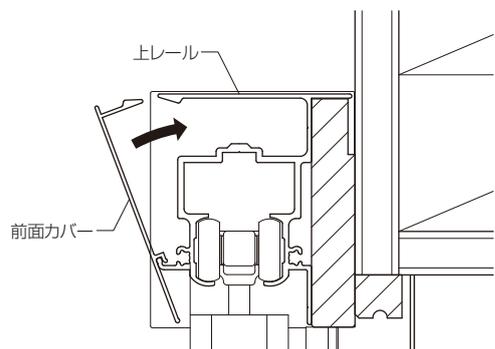


- ②回転させたラッチと逆側のラッチ(ラッチB部)にドライバーを挿入し、引っ張ります。引っ張ると端部でラッチが回転し正常な状態に戻ります。



### 5 前面カバーの取付け

- 前面カバーを上レールにはめ込みます。



## ■本体の建付け調整

### ■本体の建付け調整

●本体の吊車には、上下方向および前後方向の調整機能が付いています。

#### ①上下調整(調整幅+4mm、-1mm)

●プラスドライバーで吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。

※床面と本体下部とのチリ寸法は、8mmが標準です。

※本体を下げ過ぎるとガイドピンベース部と本体が当たりますので、下げ過ぎないでください。

#### ②前後調整(調整幅±2mm)

●前後調整は化粧縁と本体のチリが大きい(小さい)場合(標準チリ5mm)に実施してください。プラスドライバーで吊車下部の調整ねじを右に回すと本体が右へ動き、左に回すと本体が左に動きます。

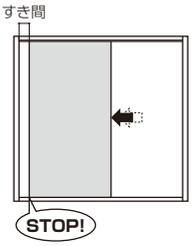
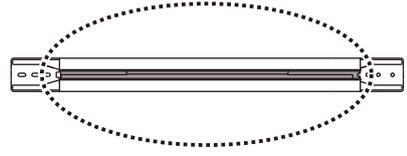
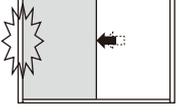
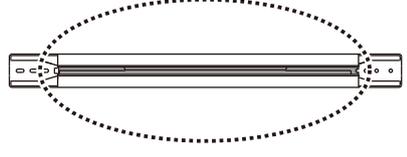
※前後調整した場合は、本体が常に垂直になるようにガイドピンの調整をしてください。調整しないと開閉操作が重くなる場合があります。

### ■本体の取外し方法

●本体を手で支えてから吊車の操作レバーを指でつまみ、上に押上げます。次に吊車を本体の内部ケースより引抜き、取外します。

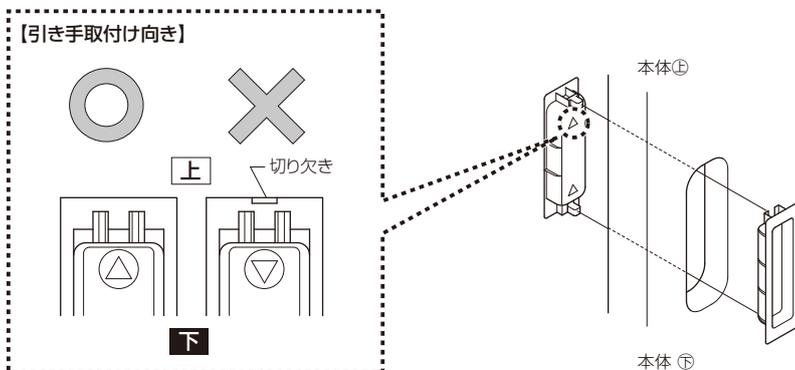
※取外しがやりにくい場合は、マイナスドライバーなどを使用して操作レバーを押上げながら引抜いてください。

### ■ソフトモーション機能 異常時の対処方法

現象	チェックポイント	対処方法
閉まりきらない 	●ソフトモーション部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある 	ソフトモーション部品の交換が必要です。
ブレーキが効かない  <p>※ブレーキの効きには限度があります。重量の重たい本体を速くしめると、ブレーキ感が弱く感じたり、逆に重量の軽い本体・Wサイズの小さい本体を早く閉めると、ブレーキ感を強く感じたりします。</p>	●ソフトモーション部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある 	ソフトモーション部品の交換が必要です。

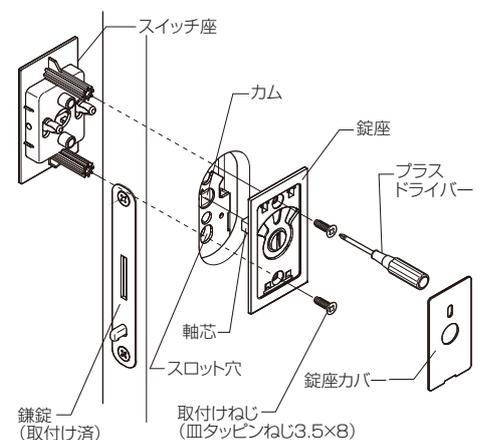
## ■引手の取付け

●引手を下図の向きで取付けます。



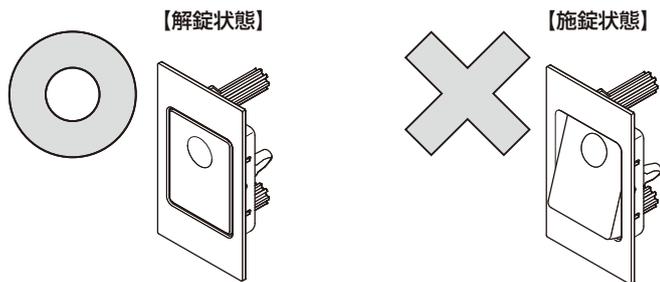
## ■引戸錠の取付け

●別売りの錠を下図のように組立ててください。

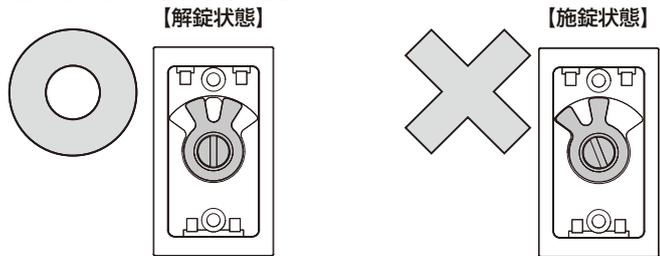


### 【錠の取付け】

①スイッチ座が解錠状態（フラットな状態）になっていることを確認して、スイッチ座を鎌錠のスロット穴に差し込んでください。



②スイッチ座の軸心が解錠状態になっていることを確認して、錠座の軸芯を鎌錠のカムに差し込んでください。

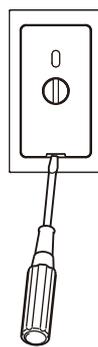


③スイッチ座と錠座を取付けねじで固定してください。

**お願い**  
 ※必ず手回しドライバーでネジを固定してください。  
 ※取付けねじを締め付け過ぎないでください。錠座が反ります。

④錠座カバーを錠座に取付けてください。

### 【錠の取外し】



**お願い**  
 ※無理矢理カバーを外さないでください。錠座カバーが破損するおそれがあります。

②スイッチ座と錠座の取付けねじを緩めてください。

③錠座とスイッチ座を外してください。

### ■引戸錠受けの取付け

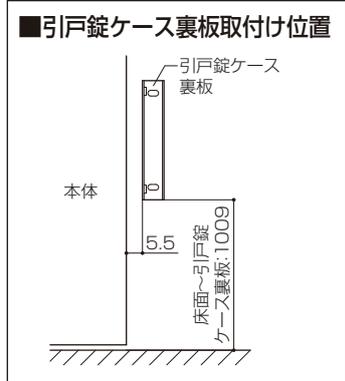
①枠の左右勝手に合わせて、同梱のねじ（トラスタッピンねじφ4×40）で、引戸錠ケース裏板を壁面に取付けます。

※引戸錠ケース裏板は、扉を閉めた状態で5.5mm あけた位置に（右図）に取付けてください。

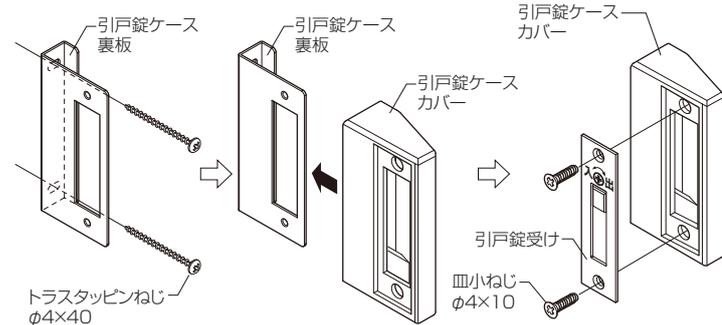
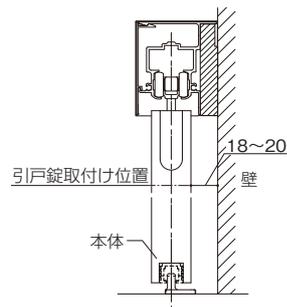
②引戸錠ケースカバーを引戸錠ケース裏板にかぶせます。

③引戸錠受けを引戸錠ケースカバーに取付け、同梱のねじ（皿小ねじφ4×10）で固定します。

※取付けねじは、柱または間柱に固定してください。



**お願い**  
 ※引戸錠受けは、上部ストッパーより先に本体が当たらないように取付けてください。  
 ※引戸錠取付位置の壁と本体のチリ寸法が18～20mmになるように、建付け調整を行ってください。鍵が施錠しないおそれがあります。

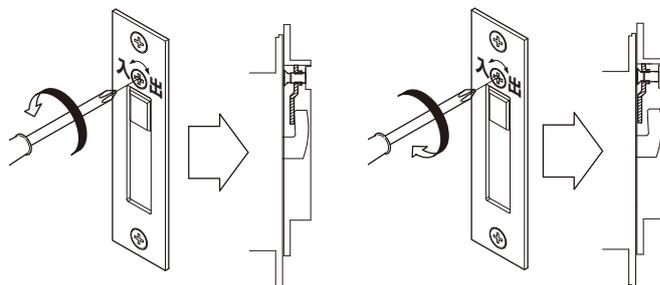


### 【引戸錠のかかり調整】

●引戸錠受けの調整ねじを右に回すと錠のかかり部が出て、左に回すと錠のかかり部が奥に入ります。

●本体と引戸錠のすき間が大きい場合  
 調整ねじを左に回して調整してください。

●錠がかかりにくい場合  
 調整ねじを右に回して調整してください。

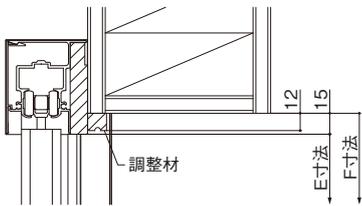


■参考納まり図

【入隅・化粧縁片面セット】

■縦断面図

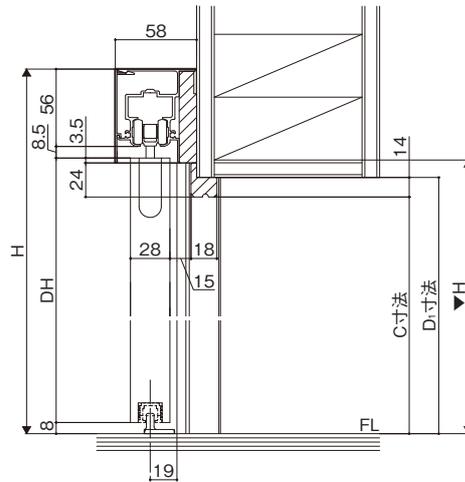
(上部調整材納まり)



W呼称(枠外寸法)	A <sub>1</sub> 寸法	A <sub>2</sub> 寸法	B <sub>1</sub> 寸法	B <sub>2</sub> 寸法
W16(1644)	781	761	819	789

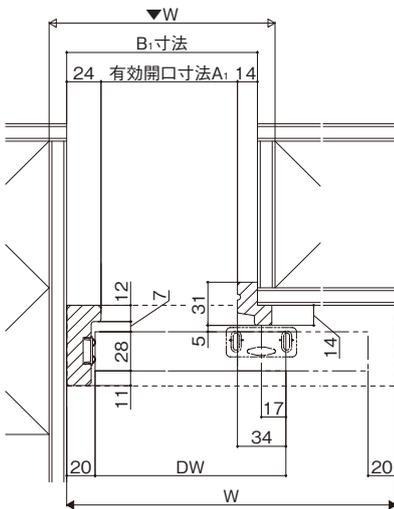
H呼称(枠外寸法)	C寸法	D <sub>1</sub> 寸法	E寸法	F寸法
H20(2046)	1954	1968	1978	1993

(上部化粧縁納まり)

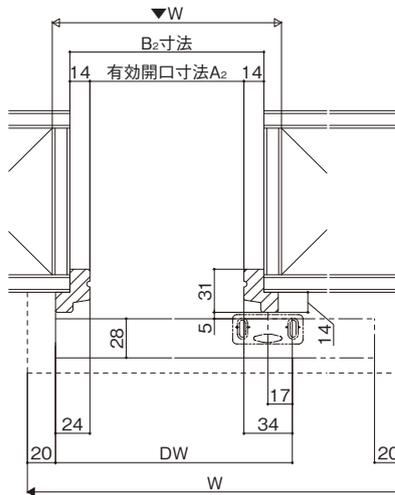


■横断面図

(片面入隅納まり)



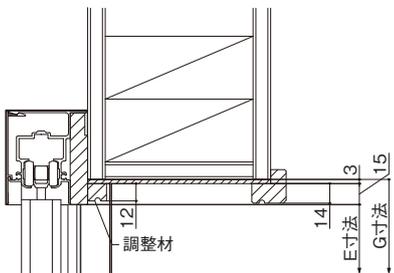
(片面化粧縁納まり)



【化粧縁両面セット】

■縦断面図

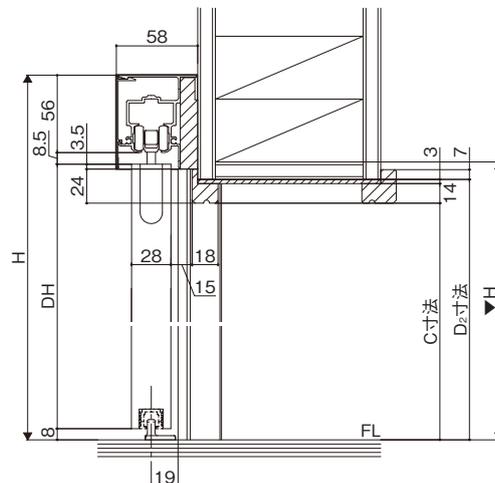
(上部調整材納まり)



W呼称(枠外寸法)	A <sub>2</sub> 寸法	B <sub>3</sub> 寸法
W16(1644)	761	795

H呼称(枠外寸法)	C寸法	D <sub>2</sub> 寸法	E寸法	G寸法
H20(2046)	1954	1971	1978	1996

(上部化粧縁納まり)



■横断面図

